



第3会場 ● 4F 視聴覚室

司 会 / 齋藤 貴雅 大分県教育庁社会教育課生涯学習推進班 社会教育主事
松田 孝二 山口県山陽小野田市教育委員会社会教育課 派遣社会教育主事

分科会の進め方

10:45~10:50

1 親同士の絆を育む「ファシリテーター」養成事業 ～NPOがサポートする、2県にまたがった家庭教育支援～

10:50~11:20

三角 幸三(熊本県熊本市) NPO法人チェンジライフ熊本 理事

NPO法人チェンジライフ熊本は、保健・医療・福祉、社会教育、まちづくり、学術・文化・芸術・スポーツ、男女共同参画社会、子どもの健全育成など多分野にわたる活動を支援している。今回の発表は、熊本・長崎の両県に共通する家庭教育支援のための「ファシリテーター」を育成する事業である。熊本では「くまもと親の学び」と呼び、長崎では「ながさきファミリープログラム」と呼ばれる。事業を所管する行政部局は、熊本が県教委、長崎は子ども政策局である。ファシリテーターに期待される機能は、ネット上に公開している親の相互交流を目的とするプログラムを各地に展開して、親同士の交流を促進し、保護者の孤立を防止することである。熊本では100名を越える人材が登録され、長崎でも全市町村でファシリテーターが養成され、関連プログラムの受講者の拡大に成功している。

2 自他の子育てを振り返り、親の「気付き」を促す参加型学習講座 「親プロ」の全町展開

11:25~11:55

米田 珠美(広島県府中町) 府中町教育委員会 社会教育委員
幅野 得恵(広島県府中町) 府中町教育委員会 社会教育課 主任

一方通行で、うけたまわり型の家庭教育支援事業では、親の意識や態度を変えることは難しい。その反省から広島県は、参加型学習法を取り入れた「『親の力』をまなびあう学習プログラム」(通称親プロ)を開発した。「親プロ」を採用した府中町では、5名のコーディネーターと71名のファシリテーターを養成して、町内全域で「親プロ」講座を展開している。開催場所は、保育園、幼稚園、子育て支援センター、小学校、公民館、子育てサークルなど多岐に渡る。目的は、参加型の学習を通して、自他の子育てを振り返り、親の「気付き」を促すことにある。府中町独自の教材も開発して、100分~120分の「親プロ」講座を、平成25年度は49回開催。受講者1,048人に達した。

3 「はやめ南人情ネットワーク」が創出した認知症見守りの「大牟田方式」 ～地域再生大賞に輝く20年～

12:00~12:30

汐待 律子(福岡県大牟田市) 大牟田市駿馬南校区社会福祉協議会 会長

活動のはじまりは、平成6年、社会福祉協議会の発議で、高齢化率の高かった駿馬南校区で始まった。公民館を中心施設として、各団体に呼びかけ、コミュニティの居場所を作り、世代間の交流を促進することを目的に活動が続けられてきた。平成16年には、正式に「はやめ南人情ネットワーク」の名称を冠して、各種団体のチームワークを駆使した認知症患者を見守る地域ネットワークとして活動が定着した。しかし、認知症の徘徊範囲は、当然校区外にも及ぶ。そこで、行政側に協力を要請して、やがて全市的な活動に拡大した。協力メンバーには、警察は元より、各種交通機関、郵便局、JA、消防署、老人会、地域介護施設などが参加して「徘徊模擬訓練」まで行うようになっていく。地域の活動主体は、民生委員、社協、公民館、学校などである。近年、この活動は、第4回地域再生大賞を受賞し、認知症見守りの大牟田方式とも呼ばれるようになっていく。